

筑紫路

発行

自衛隊福岡病院

春日市小倉東1丁目61番地

TEL 092-581-0431



新病院イメージ（令和9年度完成予定）

「不易流行」

自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸将補 森 知久

令和六年春、春日駐屯地の桜が満開に向かって色づく中、新しい准看護学生の入学式が執り行われた。第四十九期学生は陸曹含む三十五人、年齢は二十歳から三十二歳、大卒の学生、結婚して子供を持つ学生も複数おり、一昔前とは違い随分と多様な集団になったものである。教える側はさぞかし大変なことであろう。期待と不安の入り混じった瞳を輝かせながらきびきびと動くその姿に心地のよい初々しさを感じるとともに、難しい変化の時代の中で、彼らの無事の成長と活躍を心から願ってやまない心境になった。

准看護学生が伝統的に山地行進訓練を実施している宝満山の七合目に松尾芭蕉の句碑がある。芭蕉は「奥の細道」で有名な江戸時代の俳諧師であり、その理念は「不易流行」として残されている。不易流行とは、いつまでも変化しない本質的なもの（不易）を忘れない中にも、新しく変化を重ねているもの（流行）を取り入れていくこと、また変化を重ねていく流行性こそが、不易の本質であることという意味であり、芭蕉が時代の変遷の中で自らの俳諧の価値判断をどう考へるか悩み苦しんだことが感じられる。いつの時代も諸行無常であり、変化の中で新しい価値観が構築されていくのであろう。

学生の元気な掛け声が響く駐屯地の一角、テニスコートの横に二階建てのプレハブが建築された。新病院建替えに向けた工事関係者の拠点である。諸先輩方とともに約七十年という長い時を紡いできた病院本館の建替え工事がいよいよ始まる。時代に取り残されかけたレトロな病院を、「隊員は勿論国民にも信頼される病院」という本質的な価値観を大切にしながら、この変化の時代に先駆けた新しい病院に建替えて行きたいと思う次第である。

日本を取り巻く安全保障環境がより厳しく複雑になる中で、自衛隊衛生としての自衛隊福岡病院もその変化の波に曝されている。変化を好機ととらえ、着実に「変革の実行」を推進していくことが病院職員の責務であり、また希望である。地域の住民の皆様やOB・OGの皆様、関係諸団体等の皆様のご理解とご協力をお願いしたい。

最先任上級曹長
准陸尉 濱 良道

新年度になり転入者も新しい職場で歯車として回り始めていることでしょう。組織の歯車という表現は少しネガティブな感じを受け、人もいるかもしれないが、歯車はお互いに力を伝え、一つのことを成し遂げます。協力して仕事をする人の職場の比喩として適していると感じます。

「機械の中で最も重要な部品は遊びという部品である」と言う言葉があります。遊びが部品？と感じるかもしれませんが、歯車の隙間はバックラッシュ（Backlash）という正式な名前があります。

バックラッシュは歯車が噛み合うすき間に意図的に作られた空間で「遊び」とも呼ばれます。適切な遊びにすることで、歯車のぶつかりを最小にして力の伝達が最大になるよう緻密に計算された、とても重要なすき間です。それは人の職場にも必要かもしれません。「頑張りすぎる人が集まる」と職場で問題が出る場合があります。人も歯車の様に隣の同僚と仕事すること、ひとつの仕事を完成させること、遊びが適切にないとお互いの仕事力が上手く伝わらないこともあります。個々が頑張りすぎて、全体ではマイナスになるといふことも。頑張りすぎないでクラッシ「遊び」も必要です。

准看護学院入校式

准看護学院は、令和六年四月三日、西部方面総監部医務官 河野一佐ほか多数のご来賓のご臨席を賜り、病院長の立会いの下、入校式を行いました。

第四十九期学生三十五名は、准看護師である衛生救護陸曹を目指し、大きな期待を胸に全国から集まりました。

学院長の「全力を尽くせ」「自分を大切に」「仲間を大事に」という要望事項を胸に、これから二年間、准看護師資格取得を目指し、勉学に励んでいきます。

准看護学院卒業式

准看護学院長 松尾二佐は、令和六年三月六日、西部方面総監部医務官 河野一佐ほか多数のご来賓のご臨席を賜り、病院長の立会いの下、卒業式を挙行了しました。第四十七期学生三十名は、多くの病院関係者に見送られ、救命士課程や北は北海道から南は熊本まで全国各地の部隊に巣立って行きました。

尚、三月八日福岡県准看護師資格試験の結果発表があり、全員が合格を果たしました。



ようこそ！ 防医大看護七期生

《防医大看護七期生》

陸曹長 浅井 理美
陸曹長 石田 琴音
陸曹長 遠藤 あゆみ
陸曹長 奥 ひなの
陸曹長 金丸 奈瑠海
陸曹長 北原 愛菜
陸曹長 園田 かれん
陸曹長 中村 空暉
陸曹長 則松 若帆
陸曹長 花野 紗帆
陸曹長 藤田 桜
陸曹長 松笛 礼華



令和六年三月九日に防衛医科大学校看護学科を卒業し、三月九日付で、十二名の新卒が着隊しました。第四後方支援連隊の支援の下、履修前教育を行い、三月二十六日より幹部候補生学校に使命感をもって入校しました。五月二十七日に卒業予定です。より逞しく成長して戻って参りますので、今後ともよろしく願っています。

防医大看護七期生

病院での勤務 お疲れさまでした。

《三月十八日付》

建替準備室 中村 仁士（健軍）
総務課 江口 茂（目達原）
放射線技術課 田實 伸一（都城）
准陸尉 山田 守相（別府）
衛生資材課 甲斐 竜二（習志野）
准陸尉 谷金 彰子（島松）
薬剤課 二陸尉 荻野 信平（三宿）
看護部 井上 沙緒理（所沢）
一陸尉 網代 直美（小郡）
二陸尉 小林 紗耶加（南那覇）
二陸尉 荒久 田有紀（健軍）
二陸尉 宇治 香苗（千僧）
二陸尉 平井 楓（熊本）
二陸尉 山本 大稀（相浦）
三陸尉 杉原 瑠南（北熊本）
三陸尉 藤岡 那菜（福岡）
福岡病院付 満島 杏子（所沢）
《四月一日付》

医事課 堀 和也（竹松）
給食課 行（三）三 椎屋 美津子（太刀洗）
行（二）三 本多 由香（市ヶ谷）

〈転出者〉

人事往来

祝 退官

3月31日付 行(三)五 末下 修三 給食課



職場紹介

医療安全評価官



医療安全評価官では、医療安全管理業務及び院内感染対策業務に従事しております。

医療安全管理業務は、医療事故の未然防止と安全活動の推進のための業務を行っています。エラーが発生した際は、原因究明、再発防止策の検討を行います。事故発生防止に努めています。

院内感染対策業務は、患者さん及び職員の院内感染を防ぐため、感染症の発生状況を把握し、感染防止対策の指導、評価等を行っています。

ご相談等ございましたら、お気軽にお立ち寄りください。

よろしくお願いします！！

《三月六日付》

放射線技術課 原口 宗一郎（三宿から）
《三月十八日付》

企画室 木田 剛（霞ヶ浦から）
建替準備室 植田 久美子（小郡から）
一陸尉 上原 秀樹（目達原から）
総務課 野田 正剛（福岡から）
二陸尉 手嶋 智哉（飯塚から）
薬剤課 角田 真理人（南那覇から）
看護部 山中 明美（南那覇から）
一陸尉 野口 慶臣（相浦から）
二陸尉 古賀 咲子（前川原から）
二陸尉 吉松 知紗（福岡から）
二陸尉 山口 茉莉（三宿から）
《四月一日付》

行（二）三 池田 友彦（那覇から）
行（一）三 清水 知世（福岡から）
医（二）二 福田 絢（宮古から）
《四月一日付》

行（二）三 白石 孝幸（目達原から）
行（一）三 木下 修二（春日から）

〈新規再任用者〉

〈転入者〉



新病院のイメージ

四月から準備工事を行ってまいります。工事内容は雨水幹線へのボックスカルバートの設置、各種構築物の撤去等です。

建替工事に関するお知らせ

#3